

初期近代西欧の芸術文化における創造的記憶

桑木野幸司（美術史学会・大阪大学）

初期近代の西欧は、古典文化の復興や新大陸の発見、新科学の隆昌や交易の発展などにより、情報があふれた時代である。そんな状況に対処すべく、当時の知識人たちは古代修辞学に淵源する「記憶術」なる情報管理術を駆使していた。情報を視覚化し、仮想の空間内に配置することで、データの効果的管理と直観的な検索を可能とするこのシステムは、単なる機械的な情報処理の場だけでなく、同時代の文芸や視覚芸術、建築や都市計画などにも様々な形で応用されていた可能性がある。記憶が芸術的創造と結びついたとき、どのような作品観が醸成されるのか。いくつかの例を通じて検証してみたい。